



## JICA 草の根技術協力事業

「南部における科学的根拠に基づく患者中心の保健サービス向上：

大学と医師会の連携イニシアチブ」

# 疫学研修Ⅷ - 2 報告書

ホーチミン市医科薬科大学 & アンザン省保健局

2019年8月



**THIS COURSE IS IN PARTNERSHIP WITH  
JICA PARTNERSHIP PROGRAM  
AND SUPPORTED BY  
HO CHI MINH CITY HEALTH SERVICE AND  
JAPAN EPIDEMIOLOGICAL ASSOCIATION**

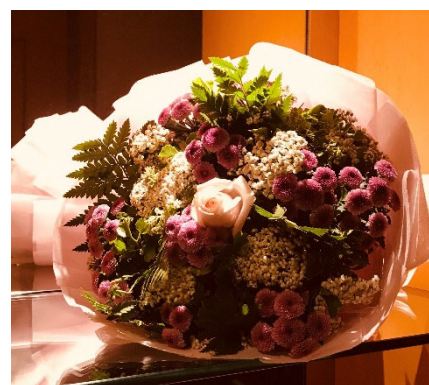
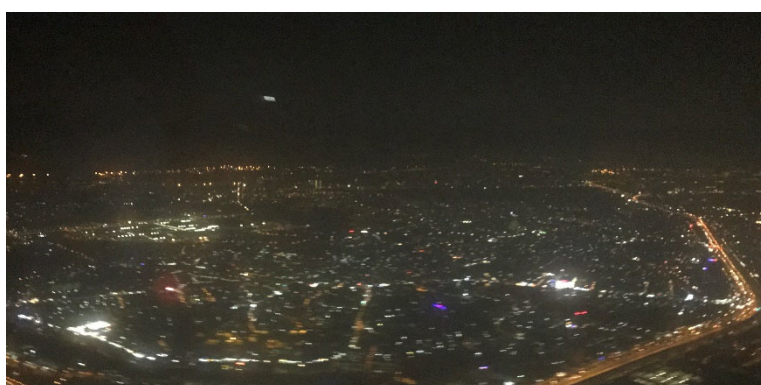
## 8月18日(日) 第1日目/移動日の日程

時間	内容	記録
15:45	成田集合 チームミーティング	・2019年度(フェーズⅢ3年次)活動予定確認 ・海外研修の安全確認 ・8月渡越の役割と日程再確認
17:50	成田空港を出発	定時出発
21:55	ホーチミンタンソンニャット空港に到着	定時到着
23:00	全員がホテル到着	

### 第1日目/移動日の感想(渡邊)

本日は日本チームがベトナムへの移動日であった。

メンバー全員が成田空港に集合して出発前のミーティングを行い、その後定時にベトナムへ出発して無事にホーチミン市タンソンニャット空港に定時に到着した。空港では遅い時間にも関わらずベトナム側の企画チームの皆さんが花束を携えて我々を出迎えてくれ、長旅で少し疲れていたが一気に身が引き締まる思いだった。その後はそれぞれのホテルに向かいチェックインし、とても順調な滑り出しであった。明日からの研修もこのように順調に進行することを切望した。



## 8月19日(月) 第2日目/ホーチミン市研修1日目の日程

時間	内容	記録
9:15	Opening	参加者:VN 30名+JP 6名 後藤あや講師、ホーチミン市医科薬科大学副学長 Ngo Dong Khanh 氏挨拶
9:25-9:45	Course description 後藤あや講師	Epidemiological Research Training Course VIII-2 概要について説明
9:50-12:20	Lecture: Statistics for epidemiology Dr. Vinh	•95% Confidence interval & p value •Hypothesis Testing
13:45-14:45	Mini-lecture: Health literacy 横川博英講師	Achievement status of lifestyle disorders: Utility of health literacy
14:50-16:20	Group project	5グループに分かれてディスカッション 参加者各自の研究結果について意見交換実施

### 第2日目/ホーチミン市研修1日目の感想(渡邊)

いよいよ研修が開始された。当研修の事前申し込みは40名であり、本日の受講者は企画チームメンバーを含めて36名であった。若い受講生が半数を占めており、彼らの多くは医科大学卒業後5年未満位であるとのことだった。他には、数名の医大生と助産師も受講していた。

午前中は、Dr. Vinhによる95%信頼区間とt検定についてベトナム語の講義が行われた。受講者は真剣にメモを取り、友人と確認しながら受講していた。特に印象に残ったのは、講義の中での積極的な質問のやり取りであった。また、中堅クラスの受講生は自分が行った研究を通しての疑問を具体的に質問していた。

午後のグループディスカッションでは、各自が研究データを持参して活発に意見交換をしていた。彼らの研修への参加態度を見て、学ぶことへの真剣さを痛感したと同時に自分の学ぶ姿勢を振り変える良い機会となった。



ホーチミン市医科薬科大学



Mini-Lectureの様子

Group projectの様子

## 8月20日(火) 第3日目/ホーチミン市研修2日目の日程 Social epidemiology -基本編-

時間	内容	記録
9:05	昨日の講義の振り返り 後藤あや講師	参加者: VN 38名 + JP 6名 ・Teach back method を用いた振り返り
9:15-11:00	Lecture: Basic statistical test 後藤あや講師、Dr. Vinh、横川博英講師	・検定の種類の選び方 ・Open epi を用いた演習 ・横川講師による paired t test の補足説明
11:15-12:00	大学・研究紹介 学生 石井	・学生生活と、MD-PhD コースでの横断研究紹介
13:30-13:40	JICA アンケート回答	“Working toward Patient-centered Care” についてのアンケートに各自回答
13:40-15:20	Exercise 後藤あや講師/Dr. Mai	・Dr. Mai による KH-coder 紹介の後、2年前の JICA アンケートを用いての実習 ・Health Literacy workshop
15:30-16:20	Group project	・Ongoing project について protocol を作成

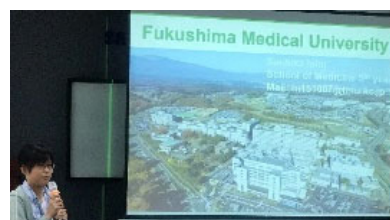
### 第3日目/ホーチミン市研修2日目の感想(石井)

午前は第2日目の復習をした後、検定の選び方の講義、それに関与した研究を紹介するという流れであった。復習では、参加者が講師に対して「自分の言葉で」自分が理解したことを説明しており、それに対して講師陣が不足している部分を補うという Teach back method が用いられていた。これは、医療者-患者間でも通用する手法であり、相互の理解の程度を確認するためにも大切な方法であることからか、皆熱心に取り組んでいた。自分の大学と研究の紹介でも、参加者が頗る真摯に発表を聞いてくれ、貴重な意見や質問を多く頂き、非常に有難いと感じた。

午後は、JICA アンケートにて、直近の患者とのコミュニケーションについて、その状況や推察される患者の心境等に関するアンケートに回答。その後、質的研究の手法のひとつとして KH-coder を用いて文章の分析を行った。Health Literacy workshop ではその概念は医療の場にとどまらず、身近な場面にも多く密かに取り入れられていることを参加者とのディスカッションを通して学んだ。Group work では各 group に分かれて研究について意見を出し合いながら講師陣の意見も参考に protocol を作成した。私の参加したグループでは膝下の長さから身長を推定する公式を作成するという研究であり、その斬新な内容から改めて疫学が扱う学問の幅広さに魅了された。



Teach back method の様子



福島医大の紹介

## 8月21日(水) 第4日目/ホーチミン市研修3日目の日程 Social epidemiology -応用編-

時間	内容	記録
9:05	本日の内容説明 後藤あや講師	参加者:VN 36名 + JP 6名
9:15- 12:00	Lecture: Multivariable analysis: A brief introduction 郡山千早講師	<ul style="list-style-type: none"> <li>•Confounding factor の概説</li> <li>•Linear regression model の理論と解釈</li> <li>•Multivariable と Multivariate の違い</li> </ul>
13:30- 14:30	Lecture: Multivariable analysis: A brief introduction(午前の続き) 郡山千早講師	<ul style="list-style-type: none"> <li>•Logistic regression model の理論と解釈</li> </ul>
14:35- 15:45	Special lecture: Care 渡邊一代特別講師	<ul style="list-style-type: none"> <li>•笑いヨガ</li> <li>•命の授業—大豆を用いて</li> <li>•身近なケア—“荒波を乗り越えて”想起</li> <li>•患者の視点からみた包括ケア</li> </ul>
15:45- 16:15	Group project	5グループに分かれてディスカッション 参加者各自の研究結果について意見交換実施
18:00- 19:30	Dr. Vinh のクリニック訪問 渡邊一代講師、学生 石井	産科クリニックを訪問し妊婦健診を見学

### 第4日目/ホーチミン市研修3日目の感想(渡邊)

本日は、多変量解析とケアについての講義が行われた。

午前中は、郡山先生のアドバンスコースの多変量解析の講義であり、この講義では講義途中で何度も Dr. Vinh のベトナム語による説明が入り、予定では午前で終了するはずであったが延長された。講義では郡山先生が基礎から丁寧に説明されており、教室の最前列に座って講義を受ける受講生や休み時間になると講師に駆け寄って熱心に質問する受講生の姿が見られた。

“ケア”の講義は渡邊講師が行った。はじめにアイスブレイクとして笑いヨガの紹介と実践をしてから講義に入ったが、既にベトナムでは笑いヨガを糖尿病患者クラブにおいて活用していることを知らされた。大笑い後の講義は、数回のワークとグループ話し合いが盛り込まれ和気あいあいと受講していたようだった。

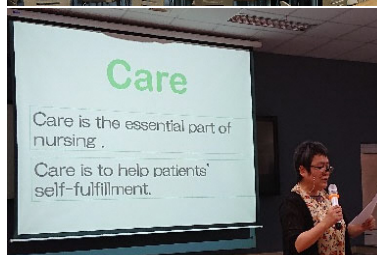
Dr. Vinh のクリニック見学では妊婦健診を見学した。医師が問診や血圧測定から保健指導までの全てを行っており、患者とその家族との会話が多くの信頼関係が強い印象を受けた。



多変量解析の講義



(写真上)笑いヨガの様子



(写真下)ケアの講義

## 8月22日(木) 第5日目/ホーチミン市研修4日目の日程 Social epidemiology -実践編-

時間	内容	記録
9:10-	JICA スタッフ紹介 後藤あや講師	参加者: VN 31 名+JP 6 名 ・プロジェクト監査のため、ハノイより JICA スタッフ 2 名が来ていた。
9:15- 12:00	Lecture and exercise: Clinical epidemiology 横川博英講師	・clinical epidemiology の手順 ・SPSS を用いた臨床データの解析
13:30- 15:00	Mini lecture: EBM on water pipe tobacco 郡山千早講師	・鹿児島大学の紹介 ・ベトナムにおける喫煙と胃がんの関係に ついて
15:00- 16:00	Group project	Research protocol 作成

### 第5日目/ホーチミン市研修4日目の感想(石井)

午前の講義では、4-6 人のグループに分かれて、演習用のデータを使いながら SPSS を用いた記述統計とロジスティック回帰分析を行った。ソフトの使い方はスタッフの丁寧な説明もあり、順調に進行していたが、結果の解釈については、研修3日目までに学んだ知識を活用したがグループ内でも個人により意見が分かれ、難しいと感じた。その一方で、統計学的なカットオフ値の定め方と公衆衛生学的なカットオフ値の定め方は異なるということを知り、データの分析だけでは留まらない社会医学の奥深さを垣間見られたと思う。



Clinical epidemiology の講義

午後の講義ではベトナムにおける疫学の研究について紹介されていた。様々な疾患の危険因子や予防因子は研究が行なわれた対象集団により異なる点が面白かった。

グループワークでは、引き続き研修3日目までと同じテーマについて議論がなされた。具体的に話が進むにつれ、分からないことも増えたがグループのメンバーが資料を示しながら丁寧に教えてくれ有難かった。



Group project の様子

8月23日(金) 第6日目/ホーチミン市研修5日目の日程 ホーチミン市医科薬科大学最終日

時間	内容	記録
9:10-9:40	テスト	テスト受験者: 24名 参加者: VN 30名(受講生 23名)+JP 6名 JICA スタッフ 2名
9:45-10:00	テスト解説	横川先生、郡山先生、後藤先生、Dr. Vinh による解説
10:00-12:00	研究発表	6題発表
12:00-12:20	Closing	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JICA スタッフ挨拶</li> <li>・ホーチミン医科薬科大学副学長挨拶と新たな研修の協定締結の交換</li> <li>・ホーチミン医師会副理事挨拶</li> <li>・成績優秀者の表彰</li> </ul>
13:50-14:15	企画委員会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本研修の振り返り</li> <li>・今後の研修の進め方</li> </ul>
14:30-19:30	アンザン省へ移動	

第6日目/ホーチミン市研修5日目の感想(渡邊)

本日は、午前中に研修の最終試験と受講生による研究発表、閉会式が行われた。発表課題は6課題であり、糖尿病に関する研究が4題、学生による調査研究が1題であった。もう1題は研修企画チームから、この研修を既習した医師のその後の患者との診療関係性を KH-coder で分析した調査であった。最終試験の成績優秀者表彰では医学生の石井さんがトップ表彰を受けた。多くの医者の受講生の中で日本の医学生が表彰を受けたことが誇らしかった。

閉会式では、JICA スタッフからこのプロジェクトが高い成果を上げたことについてのコメントがあり、今後の研修についてはホーチミン医科薬科大学と新たな研修の協定締結の交換が行われた。日本側とベトナム側が丁寧にそして目標をもって活動してきた成果を感じた閉会式だった。

午後からはアンザン省への移動であった。今年は複数の橋の建設でフェリーボートによる移動はなかったが、車による5時間の移動は疲れた。



閉会式での集合写真

## 8月24日(土) 第7日目/アンザン省研修1日目の日程

時間	内容		記録
8:20	アンザン省幸福病院到着		スタッフ ベトナム: 6名 日本: 6名
8:30-	Opening アンザン省保健局副所長挨拶 後藤あや講師挨拶		参加者: 86名(スタッフ含む)。 ベトナムの公衆衛生医が3名いた
8:45- 12:00	Lectures and exercises	Dr. Khoa	・PubMed、Google scholar 等文献検索のPICO/PECOを用いた方法について
		Dr. Trung	・文献検索でヒットする多数の論文の概要のつかみ方、通読する際の注意点について
		Dr. Tho and Dr. Thanh	・Endnote での文献管理
10:30- 12:00	病院見学 渡邊、児山、石井		・幸福病院 小児科、産婦人科の見学
13:00- 17:00	Lectures and exercises	Dr. Khoa	・Ethics & Authorship
		Dr. Trung	・Informed consent
		後藤あや講師	・Plagiarism Paraphrase の方法と意義、効果
		Dr. Vinh and Dr. Nhan	・t-test (paired and unpaired); Z test; Chi square test、Fisher's exact test

## 第7日目/アンザン省研修1日目の感想(石井)

各講義のエクササイズでは、参加者の積極的な発言や、演習の取り組みが見受けられた。このコースには、アンザン省の医師だけでなく、他の省からも参加者がいらしていた。本コースのような勉強会は年に数回ほどのまれな機会ということもあつてか、真剣に取り組んでいた。Plagiarism の講義で、Paraphrase とは、単に単語を言い換えることだけではなく、文章の順序を入れ替えることで、自分が主張したいことを明確に述べることができるということを学んだ。



講義の様子

病院見学では、小児科、産婦人科、救急科をみた。分娩室はLDRという陣痛、分娩、回復を一つの部屋で一貫して診ることができる部屋を見学出来た。建物は、今年建て替えたばかりであり、綺麗だった。看護師がナースステーションに入る際、サンダルを脱ぎ裸足になっていて、医療安全対策に対する考えが日本とは違う印象を受けた。



ハンフック病院の玄関にて



## 8月25日(日) 第8日目/アンザン省研修2日目の日程

時間	内容		記録
7:30	ホテル出発		7:45 研修所に到着
8:00-8:10	Introduction Dr. Khoa、後藤あや講師、渡邊一代講師		参加者:アンザン省 VN 84名 + VN 6名 JP 6名 ・前日の講義の復習 ・包括的ケアの紹介と笑いヨガの紹介
8:10-9:50	Lectures and exercises	郡山千早講師	Multivariable analysis
		横川博英講師	Clinical epidemiology; 臨床データを用いて統計ソフトを実際に使用
		Dr. Phong	t test and Z test
10:00- 10:15	終了テスト		
10:15-10:30	研究発表		受講生による研究発表 2 題 質疑応答と講師陣によるコメント
10:30-11:00	Mini-lecture: Dr. Tho		Slide: Endnote
11:00-11:30	Closing		・成績優秀者の表彰 ・後藤あやプロジェクトマネージャーがアンザン省人民委員会から盾を授賞
13:00-18:00	アンザン省からホーチミンへ移動		
23:25-06:55	ホーチミン市タンソンニャット空港から羽田空港へ移動		

## 第8日目/アンザン省研修2日目の感想(渡邊)

本日は午前中に研修を4テーマと研究発表、閉会式が計画されたため忙しかった。閉会式では、後藤あやプロジェクトマネージャーがアンザン省人民委員会から盾を授賞された。人民委員会からの表彰は、この研修への関心の高さを示すものであると思った。



(写真左)閉会式での集合写真  
(写真右)アンザン省より盾授賞

## 8月26日(月) 第9日目/移動日の日程

時間	内容	記録
6:55	羽田国際空港到着	

### 第9日目と研修全体を通しての感想(渡邊)

最終日は定時に飛行機が羽田国際空港へ到着した。無事に帰国することができてよかった。

私は3年間続けてこの研修に参加させていただき多くのチャンスとチャレンジを受けたことは貴重な経験であり、まだまだ自己研鑽の必要性を痛感させられた。また、自分が学ぶだけではなく、はたしてこのプロジェクトにおいて自分の役割を果たすことができたのかも非常に気になった。

### 研修全体を通しての感想(石井)

本プロジェクトに参加することで、疫学研究を基礎から学びなおすことができた。また、ベトナムの医師や助産師、医学生とも交流するなかで様々な研究内容や手法を学び、疫学研究の視野を広げることができた。将来的に日本で研究することを希望する学生もいて、彼らの向学心に感化された。今回得ることのできた縁を大切に今後は疫学の共同研究も視野に入れながら今いる己の場所で精進していきたい。

### プロジェクトマネージャー追記(後藤)

本報告は毎年、若手人材育成の一環としてプロジェクトアシスタントの学生や院生が執筆している。本年度もお二人に事業運営面で活躍してもらい、それだけでなく渡邊さんは特別講師としてケアについての interactive な講義を行い、石井さんは現地医学生グループに入って演習をこなし、最終試験で最優秀賞を受賞した。さらに、現地若手医師がアンザン省で講義の一部を、ビン医師の指導の下で行った。このような両国の人材育成が、今後の事業の継続性と発展につながると期待している。本事業は、本学・鹿児島大学・順天堂大学と国内3大学の協力の下で実施されていることも大きな特徴であるが、本学以外の2大学の若手との交流を組み入れることも今後検討する。

#### 報告担当者

渡邊 一代 (福島県立医科大学医学研究科国際地域保健学博士課程)

石井 三千花 (福島県立医科大学医学部5年)